

大夫跡	念在吾哉	水莖之	水城之上尔	泣将拭	万葉集 卷六 968 大伴旅人
ますらをと	思へる我れや	水莖の	水城の上に	涙拭はむ	
ますらをと	おもへるわれや	みづくきの	みづきのうへに	なみだのごはむ	
ますらおだと	思っていた私も	（枕詞）	水城の上で	涙を拭ったものだ	